

鈴木啓資（ピアニスト、指揮者、音楽博士）

静岡県島田市出身。奈良教育大学音楽教育講座准教授（ピアノ）。2017 リスト協会国際ピアノコンクール優勝、2021 クララ・シューマン国際コンクール室内楽プロフェッショナル部門第 2 位などの受賞歴を持ち、国内外でソロ、アンサンブルを問わず評価されている。また、2019 年にはシリングスフェルストにて開催された Liszt Festival において、リストの演奏に対してメダルを授与された。平成 30 年度島田市芸術文化奨励賞受賞。

静岡県立藤枝東高等学校を経て、東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。大学 3 年次に短期留学奨学金を得て、フィンランドのシベリウスアカデミーに留学。ハンガリー政府 Stipendium Hungaricum 奨学生として、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学ピアノ科修士課程をナードル・ジョルジ、ファルカシュ・ガーボル各氏の指導のもとで首席修了。帰国後は東京音楽大学大学院博士後期課程において、村上隆、ファルカシュ・ガーボル、川上昌裕（以上ピアノ）、村田千尋（音楽学）各氏に師事。2021 年にドホナーニ研究で博士号（D.M.A.）を取得した。ドホナーニ直系の流れを汲む日本人唯一のドホナーニ研究者として知られている。

また、ピアノ協奏曲の弾き振りをしたいという思いから指揮を学び始め、2015 年にピアノ協奏曲の弾き振りで指揮者デビュー。以降、ピアノ協奏曲の弾き振りをライフワークとし、国内外を問わず様々な指揮活動を展開している。近年は新曲（世界初演）の指揮にも力を入れており、これまでに 30 曲を超える新曲を指揮してきている。

現在、演奏や研究に加え、室内楽セミナーの音楽監督やコンクール審査員などの教育活動などを幅広く行っている。音楽之友社『ムジカノーヴァ』誌上にて、「ドホナーニの作品世界へようこそ」、「はじめてのドホナーニ教則本」の連載を担当するなど、日本におけるドホナーニ研究の第 1 人者として研究を続けている。